

「この人 02」

白井道義 67 歳 福岡県

八 木 データベースに 50 句掲載いただきましたが、
その中でご自慢の三句をご紹介します。

白 井 「すらすらと書いて悔いあり初日記」
「鶏頭の十四五本といふ半端」
「呼鈴の音に一癖帰省の子」
いずれも微苦笑俳壇で特選をいただきました。

八 木 なかなか奥行きのある作品ですね。

白 井 やはり 洞察力がうまく働いた時は良い句が生まれますね。
滅多に働かないが(笑い)

八 木 みかんの国俳句大賞で特別賞をお受けになりましたね。

白 井 「雲といふ雲を払ひて蜜柑山」 という作品でした。

八 木 いろいろなところに投句なさってらっしゃいますね。

白 井 月に 50 句から 60 句投句しますが、やはり滑稽味の句に力が入ります。
ということは伝統系のところでは選んでもらえないんです。

八 木 滑稽をやるようになった「きっかけ」はあるんですか？

白 井 私は「駄洒落」が好きでして、財務局に勤めていましたが 職場でも駄洒落の毎日でした同僚は結構喜んでくれましたね。
硬い職場ですから私のような存在は潤滑油になる。

八 木 実は私も駄洒落好きで 職場でもなにか言うと必ず「落ち」を要求されました(笑い)
俳句やって良かったことはどんなことですか？

白 井 実は私は「俳句に救われた」のです。
大腸がんを患いました 明日は手術だという病院のベッドの上で月刊誌「俳壇」北光星先生特選の通知をいただいたの

です。
そのときの句は 「薔薇を剪る時も膝折る修道女」
という句でした。
特選になって「癌」に立ち向かう勇気が湧いてきたのです。
あの特選がなかったら私は今頃生きてたかどうか。

八 木 凄いエネルギーを貰ったんですね。
滑稽俳句に傾いたのはそのあとですか？

白 井 俳壇の微苦笑俳壇の八木さんの批評がオモシロイのでなん
としてでも特選をとろうと頑張りました。

八 木 ありがとうございます。 それを最初にお聞きしていれば
特選をいくらでも・・嘘です(笑い)
データベースの 50 句以外にもいろいろ良い句を隠してる
んじゃないですか。

白 井 あれはほんの一部です 嘘です (笑い)

八 木 最後に滑稽とは・・
白井道義の滑稽俳句論をお聞かせください。

白 井 人生そのものが滑稽じゃないですか。
人間はみんな滑稽で哀しいものです。
だからしかめ面してても仕方ない。
俳句だって難しい顔してつくっても仕方ない。私は滑稽俳句
協会がこれから果す役割は大きいと思いますよ。などと言っ
ても私には何のお手伝いもできません。

八 木 滑稽俳句をおつくりくださればよろしいです。
それを後世に残す。それが協会の仕事ですから。

白 井 わかりました 滑稽俳句つくことで応援しましょう！

八 木 ありがとうございました